

【6月補正予算案知事記者会見】6月6日(木)

本日8時、国の検査機関に依頼していた豚熱検査の結果、陽性が確認された。検体は、昨年豚熱が出た豚舎の近辺で捕獲された野生イノシシ2頭。豚舎の豚には、豚熱ワクチンを接種済み。イノシシ間の感染を防止するよう警戒を続ける。

令和6年度6月補正予算案

6月補正は34億円の増額、補正後予算は5,240億円。

34億円の内訳は、通常補正分が3億円。社会資本整備に係る国庫認証増のうち、河川砂防関係20億円、農業・農村整備関係11億円。

収益UP、賃上げ、設備投資の好循環を県内に広める

中小企業の約半分が、コスト上昇分の20%未満しか価格転嫁できていない。価格転嫁を円滑に進めるため、県内の13機関が連携し、協定を締結する。

まず、価格転嫁伴走支援プロジェクト。価格交渉の際、分析や計算、交渉術とも言えるタイミングを専門家が支援する。また、スキル向上のためのセミナーを開催する。

次に、「適正な時価」研究プロジェクト。安いものをできるだけ安く、できれば無料にすることが美德では、正当な価値が受けられず、収益が上がらない。市場の状況に応じて価格をつけるダイナミックプライシングに基づいたプロジェクトを展開する。

ディズニーランドは、入場料が繁忙期に高く、オフシーズンは安い変動価格制になった。最近では、高速道路や電車も利用者の多さで料金を変える案が浮上。また、外国人観光客に外国人価格を適用するところも出てきた。県内の日本的な物産に、二重価格を導入できるか研究を進めたい。

職場環境の改善を支援

佐賀県の有効求人倍率は、1.32。九州で2番目に高い。働きやすい環境を整え、多様な労働力を確保したい。

多様な人材確保環境整備事業として、女性向けに休憩室の整備や更衣室を設置し、ハードの面で女性が働きやすい環境にする。外国人を受け入れるため、社員寮やトイレの様式化、ピクトグラムの表示で分かりやすくする。また、誰もが快適な職場環境実現のため、テレワークやバリアフリー化をする。

併せてソフト対策も必要だが、今回はハード面の拡充。補助率2/3、伝統的産業は3/4、上限500万円。1.1億円を計上。

SAGA 県内企業トリプルツアープロジェクト

私の知事就任時、県内就職率は 57%程度。「プロジェクト 60」から始め、達成するたびに数字を上げてプロジェクトを推進した結果、県内就職率の上昇率は全国 1 位。しかし、都道府県ランキングは 43 位。まだ、改善の余地がある。

そこで、「プロジェクト 65+」を拡充し、トリプルツアープロジェクトを行う。就職先の選定には保護者の影響力が大きいいため、高校生と教員だけでなく、保護者にも企業や産業技術学院を訪問してもらう。

さらに、訪問先の企業が、効果的に PR できるようコンサルタントを派遣する。従来、県内の生産業の企業は、人材獲得に消極的だった。昨今の人材不足で PR に力を入れる企業が増加したものの、自社の魅力を発信できていない。

今回のプロジェクトは、学生と企業の双方に利益をもたらす。

県内進学への促進に向けた受入環境の整備

唐津には 7 つの離島がある。離島には、小学校あるいは中学校までしかない。高校は、唐津市へ通うことになるが、寮がなく、やむを得ず県外に進学することもある。そのため、西唐津の県職員宿舎の一部を寮として活用し、離島の生徒 2 名が入居している。

SSP 構想では、佐賀市、鳥栖市、太良町に SSP 寮があるが、北部にはなかった。そこで、スポーツで活躍する生徒や通学困難な生徒のために、この宿舎 1 棟を寮にする。食堂の整備など受入環境を整え、離島問題だけでなく、県北部地域高校への進学を促進する。

新たな大学設置への支援

県内の 4 年制大学は、佐賀大学と西九州大学の 2 校のみ。これは島根県と並んで全国最少の大学数であり、公立大学や高専が未設置の県は佐賀県のみ。

大学進学者 3,500 人のうち、3,000 人が県外へ進学。その中には、県内での学びを希望している人も相当数いるはず。

県立大学の構想では、定員が 200~300 人。250 人として、武雄アジア大学は 140 人。計約 400 人のうち、半数を県外からの入学者とすると、減らせる県外流出は約 200 人。まだ不足感がある。

今回の大学づくりは、旭学園と武雄市の共同事業。県内の大学教育の拡充に向け、武雄市負担の 1/2 を間接補助する。債務負担行為で 6.5 億円。

江藤新平復権プロジェクト

今回で第3弾となるプロジェクト。江藤は、司法制度、憲法や民法の編纂、東京奠都の建白書提出、国民皆教育の導入を訴え、国の基礎をつくった文官。

150年前の佐賀戦争で亡くなり、その2年後、佐賀は他県に7年間併合された。その影響もあるのか、薩長土肥の中で、西郷隆盛や坂本龍馬は英雄化が図られたが、江藤はそうではなかった。

第1弾は特別展の開催、第2弾では映像を制作。特別展の来館者数が非常に多く、第3弾は本丸歴史館への常設化を展開する。常設化と来年2月の式典開催のための予算。

合計特殊出生率の発表があり、佐賀県は1.46で全国6位。日本全体が低下しており、東京は1を切り0.99。

佐賀県は、人口当たりの15歳未満の子供率3位以内を25年間継続している。今後は、高等教育化から企業へと連携し、実践的人材を作り上げる。また、付加価値の高い企業群をつくっていく。これは、九州全体として連携し、取り組むべき課題でもある。